

# EBPM シミュレーター

---

Ironsides

# 01 | EBPM と政策実行者の課題

0. 問題発見

案出しの負担

1. 立案

「ロジックと評価手法を考案」

4. 改善

「次の方向性を議論」

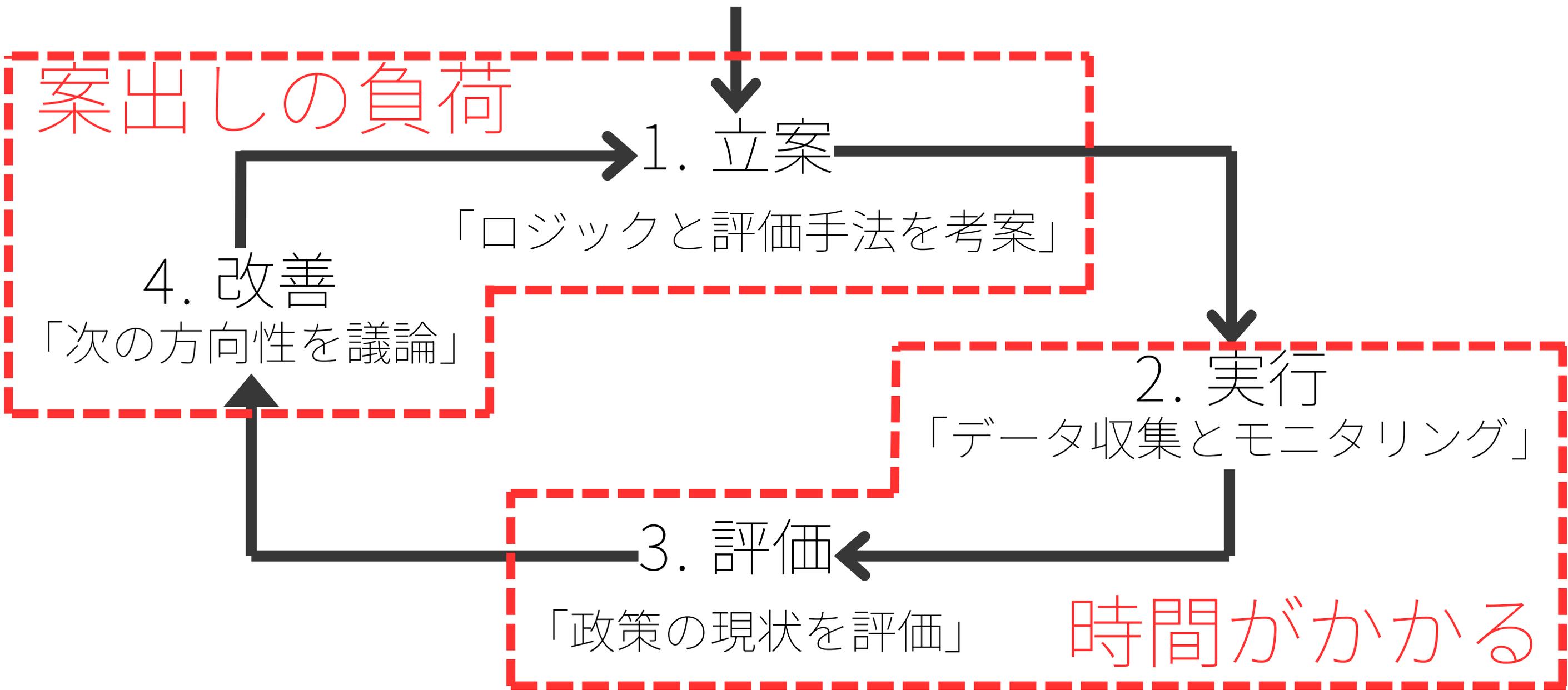
2. 実行

「データ収集とモニタリング」

3. 評価

「政策の現状を評価」

時間がかかる



## 02 | EBPMシミュレータ「AIエージェント駆動のEBPM」

AIが案を出す

対話

人間が決定

0. 問題発見



1. 立案

「ロジックと💡評価手法を考案」

2. 実行

「データ収集とモニタリング」

3. 評価

「政策の🚀現状を評価」

AIが情報処理

4. 改善

「次の方向性を議論」

e-Stat  
政府統計の総合窓口

Google

# 03 | デモ画面: 初期画面

## EBPM補佐エージェント

事業選択Canva

事業一覧

プロジェクトID  
3997

EBPMバージョン

3997

3997 のバージョン

- budget\_id
- basic\_info
- inspection\_evaluation
- effect\_path\_data

レビューシートからプロジェクトを指定

履歴 / 最終レポート

プロジェクト 3997 (バージョン 3997) の最終レポート

ここにレポート内容が表示されます。

効果発現経路を表示

EBPM開始ボタンを押す

バージョンも指定可能

平成17年度以前に国及び地方公共団体からの支援を前提に公共団体の認定を受けて供給された施策住宅、および平成18年度以降に管理開始された借上公営住宅や住宅確保要配慮者専用賃貸住宅等に対する支援を維持するために必要な家賃低減等、また、都市再生機構が行う賃貸住宅の建替え等及び家賃改定に係る賃貸住宅並びに地域優良賃貸住宅の家賃の減額について、その経費の一部の補助を実施。

低額所得者等の居住の安定確保

適切な家賃低減化補助の実施

最低居住面積水準未達世帯の早期解消を目指す。

EBPM開始

チャット

## 03 | デモ画面: エージェントの動作

ログが出る

The screenshot displays the EBPM (Enterprise Business Process Management) agent interface. It is divided into several sections:

- 事業選択Canva**: A section for selecting a project, with a text box for the project ID containing the value "3997".
- EBPMバージョン**: A dropdown menu showing the current version "3997" and other available versions "14", "98", and "133".
- エージェント**: A section for configuring the agent, including fields for the project name and version information, and a large orange button labeled "EBPM開始" (Start EBPM).
- 履歴 / 最終レポート**: A section showing the execution status of various agents. It includes:
  - EBPMプロセス進行状況**: A list of agents with their status, execution count, and output count. The "KPI生成エージェント" (KPI Generation Agent) is marked as "完了" (Completed) with 1 tool execution and 0 outputs. The "データ収集エージェント" (Data Collection Agent) is marked as "実行中" (In Progress) with 2 tool executions and 0 outputs.
  - 最新のエージェントログ**: A log of recent agent actions, including data collection and KPI generation, with detailed JSON-like output.

Overlaid on the interface is a dark grey box containing the following text:

エージェントの流れ  
1. KPIを設定  
2. 情報を収集  
- e-stat統計情報  
- Web検索  
3. 政策進行レポート作成

# 03 デモ画面: 最終レポート作成

**因果関係フロー**

**因果関係分析**

因果関係チェーン数: 1件

チェーン1

- 根拠数: 3件
- 根拠内容: 地方公共団体や独立行政法人都市再生機構が実施する公的賃貸住宅等を対象とした家賃及び家賃債務保証料等の減額について、国がその減額に係る経費の一部を補助することにより、地方公共団体の負担を軽減するもの。

因果関係フロー

```
graph TD; A[公的賃貸住宅等を対象とした家賃及び家賃債務保証料等] --> B[地方公共団体や独立行政法人都市再生機構が実施する]
```

時系列データの不足: 多くのデータが単一時点の情報であるか、短い期間のデータのみであり、事業のトレンドや進捗状況を時系列で分析することが困難でした。

粒度の不一致: 「地方公共団体別」や「対象住宅種別」といったKPIで求められる粒度での詳細データが得られませんでした。

**今後の提言:**

- KPIと実績データの明確な紐付け:** 今後データ収集を行う際には、各KPIに対して、その定義と測定方法が明確に合致するデータを取得するよう徹底してください。
- 具体的な目標値の設定:** 各KPIに対して、達成すべき具体的な数値目標を設定することで、進捗評価の客観性を高めることができます。
- 時系列データの継続的な収集:** 事業開始から現在までの補助金交付額、家賃等減額対象世帯数、1世帯あたりの平均家賃等減額額について、定期的かつ継続的にデータを収集し、時系列での変化を把握できるようにしてください。
- 詳細データの取得:** 可能であれば、「地方公共団体別」や「対象住宅種別」といった、より詳細な粒度でのデータ収集を検討し、事業の効果を多角的に分析できる体制を構築してください。
- データソースの明確化と統一:** 提供されるデータの出典を明確にし、本事業の評価に特化した信頼性の高いデータソースを選定・統一することが重要です。

これらの改善により、より精度の高いEBPMに基づく事業進捗評価が可能になると考えられます。#KPI評価レポート: 公的賃貸住宅等家賃低廉化補助事業

**評価概要**

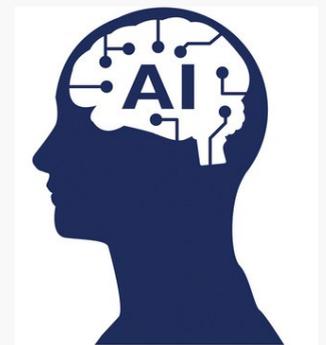
**総合評価: 良好 (72.0/100点)**

「政策の進捗」と「立案」を評価してくれる

数値データやロジックモデルは図として表記



次の立案方針を相談



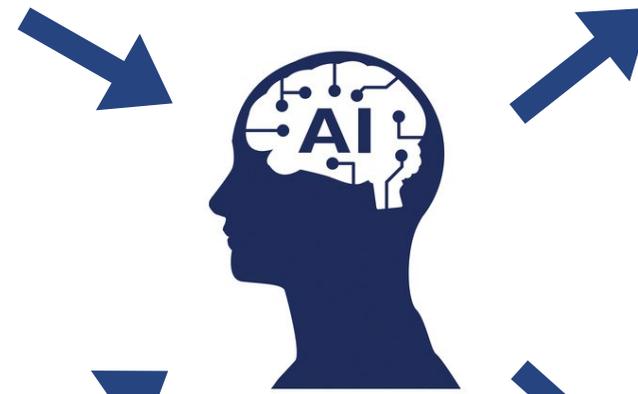
## 04 | 導入による効果

# 従来

### 時間かかる

- 人力でデータ収集
- 人力で効果検証

速くて正確



### 案出しの負荷

- 多要素を考慮した考案
- 実施した後の予測の難しさ

提案力

# 導入後

### 時間短縮

- 単純作業をAIが代替
- 自律的に動作

### 案出しに集中

- 人間の業務を案出しに集中
- データによる仮の検証で予測サポート

手間

案出し

## 05 | 今後の展望



### 1. 信頼できる相談相手として

「データの収集」「立案生成」「政策比較」などの機能充実  
→ 実践の場での相談相手や会議ツールに



### 2. データの活用範囲の拡大

リソースをe-statから事業報告書や個別の統計データへ拡張  
→ 精度の改善、活用範囲の拡大

## 06 | おわりに

ご清聴ありがとうございました

### 参考文献

- 2024, 内閣府, E B P Mのエビデンス構築に向けた 参考分析事例集
- 2022, 内閣官房行政改革推進本部事務局, EBPMガイドブック
- 2022, 三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社, 政策評価とEBPMをどう連動させるか? 1ー基本的な考え方と実践例

